

## 持続可能な社会・地球を目指して

ジェイテクトグループは、環境を経営の重要な課題の一つとして位置づけています。2011年3月には「環境理念」「環境方針」からなる「ジェイテクトグループ環境ビジョン」を策定し、全社・グループ一丸となった推進体制のもと、社会・地球の持続可能な発展に貢献する取り組みを進めています。

### 環境ビジョン

#### 環境方針の改定

ジェイテクトは、2017年1月に環境方針を改定しました。工場への再生可能エネルギーの導入や水を含めた資源の再利用などに加え、環境配慮型製品のトップランナーとして、事業を通じたCO<sub>2</sub>の削減に貢献しています。今後は、ジェイテクトの事業目的・経営戦略との連動性をより高めた環境マネジメントシステムの構築に努めます。

### ジェイテクトグループ環境ビジョン

#### 環境理念

ジェイテクトグループは、地球環境が将来にわたり、健全に保全され、持続可能な社会の実現と共生のために、自らの事業活動および製品のライフサイクルを通しての環境負荷をゼロにすることを目指します。

#### 環境方針

ジェイテクトの全従業員は、企業理念のもと「JTEKT GROUP VISION」、「JTEKT WAY」を共有し、内部及び外部の課題を含む経営戦略に応じて、自主的かつ積極的に地球環境保全活動を推進する。

1. 環境パフォーマンス向上のため、環境マネジメントシステムの継続的改善を図る。
2. 事業活動にかかわる環境法令・条例・協定及びその他の要求事項を順守する。地域環境との融和を図り環境保全の維持・改善を行うとともに、環境汚染の予防に努める。
3. 製品のライフサイクルを軸とした環境管理活動を行い、次の項目に取り組む。
  - (1) 環境配慮型製品の開発及び設計
  - (2) 環境負荷の少ない原材料の調達、及び製造段階でのCO<sub>2</sub>、廃棄物、化学物質等の管理・削減
4. 各事業所の立地条件を考慮した、生物多様性の保全、及び生態系の保護による自然との共生社会の確立。

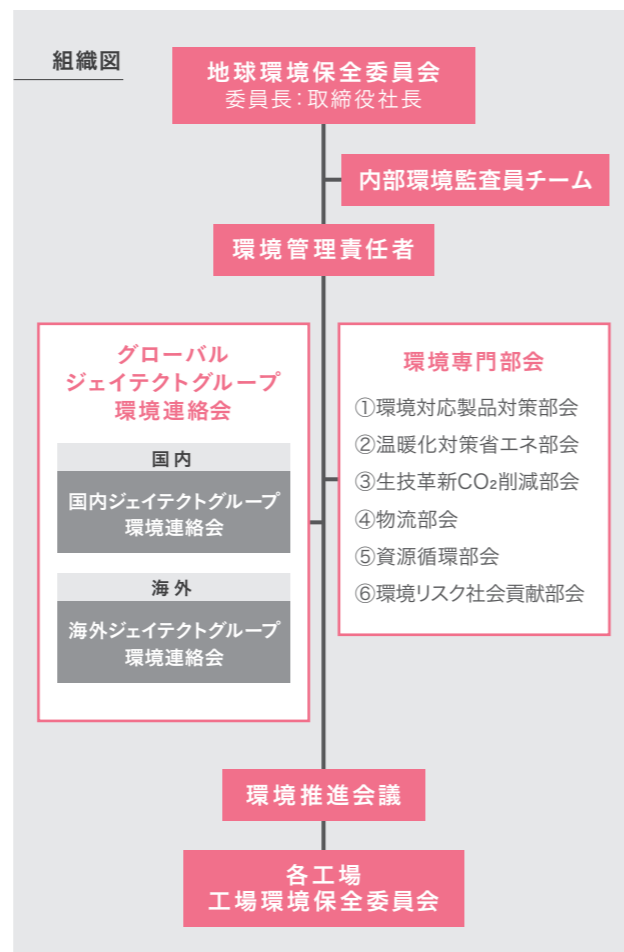
### 推進体制

#### 地球環境保全委員会

ジェイテクトでは社長を委員長とする「地球環境保全委員会」を設置し、環境マネジメントを推進しています。委員会のもと、各環境専門部会が高い目標を掲げて活動を展開しています。

#### グローバル環境マネジメント

ジェイテクトだけでなく、国内グループ19社・海外グループ40社(2018年3月31日現在)を対象に、環境マネジメントの一層の強化に取り組んでいます。



## 2020年度環境行動計画

ジェイテクトは、2050年の環境負荷極小化を目指す「環境チャレンジ2050」の実現に向け、取り組み方針および具体的な目標を定めた「2020年度環境行動計画」を策定しました。目標の達成に向けて、ジェイテクトグループ一丸となって取り組み、2017年度は目標の一部を前倒しで達成できました。

### 2020年度環境行動計画目標、2017年度の活動実績

(抜粋)

区分	実施	項目	基準年	2020年度目標	2017年度実績
製品・技術	グローバル	製品によるCO <sub>2</sub> 削減貢献量*	—	800千t	761千t
		CO <sub>2</sub> 排出量	2020年度原単位目標×生産量	—	—
低炭素社会の構築	ジェイテクト単独	CO <sub>2</sub> 原単位	2008年度	15%減	10.1%減
		物流CO <sub>2</sub> 原単位	2012年度	8%減	11.6%減
		CO <sub>2</sub> 原単位	2012年度	10%減	9.7%減
循環型社会の構築	ジェイテクト単独	廃棄物原単位	2008年度	18%減	18.8%減
		梱包資材原単位	2012年度	8%減	4.9%減
		水使用量原単位	2012年度	8%減	21.7%減
		グローバル	廃棄物原単位	2012年度	8%減
グローバル	水使用量原単位	2012年度	8%減	50.0%減	

詳細公開

\* 全体のCO<sub>2</sub>排出量と同等以上のCO<sub>2</sub>を製品による削減で貢献

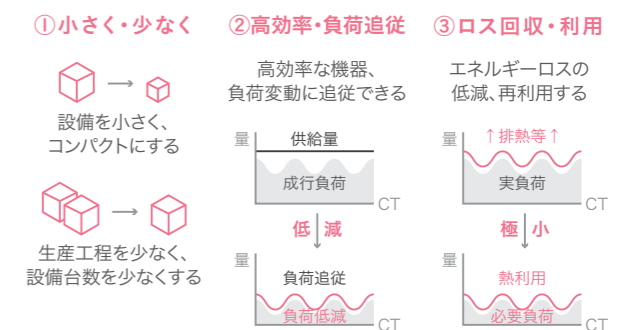
「2020年度環境行動計画」については、ジェイテクトウェブサイトでも紹介しています。  
<http://www.jtekt.co.jp/news/160531.html>

### 取り組み All for One Earth



地球温暖化や資源枯渇などの環境問題に対し、ジェイテクトグループが一丸となって解決に向かうための環境フィロソフィーを制定しました。企業として取り組むべき環境活動の方向性を示すとともに、人類の継続的な発展に向け、環境活動を通じて直接・間接的に社会に貢献するという想いを表しています。

#### 生産技術革新の取り組み



2020年度CO<sub>2</sub>削減目標(2008年度比15%削減)に向けて、生産技術革新による生産性向上・CO<sub>2</sub>削減を行っています。2017年度は、「モノづくり×エネルギー・CO<sub>2</sub>量」(モノづくりとCO<sub>2</sub>量は比例する)を活動指針に、新設・改造、全ての生産工程のCO<sub>2</sub>削減に取り組ましました。